

板野南小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①聴く力・読む力・書く力を高める。(聴くを重点的に)
- ②主体的に学習に取り組むことができる子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
---------	----	----

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学力アップタイムや家庭学習で計算や漢字などを繰り返し練習することで、定着しつつある。	①丁寧に視写することができる。 ②声に出してすらすら音読ができる。	基礎的・基本的な事項についての確認テストで正答率を80%以上にする。	引き続き、漢字の読み書きや計算練習に取り組む。算数(図形など)では、具体物で操作させることに重点を置いた指導を行っている。	学力アップタイムでは、計算プリントや学級の実態に応じたものを使い、取り組んだ。具体物での操作に重点を置き授業にも取り組んだ。学級懇談の話題として学力向上に向けて家庭学習についての話し合いも行った。	学年により実態に違いがあり、能力差があるが基礎的基本的な事項の正答率に伸びがみられた。繰り返し練習し、丁寧に指導していくことで全体として正答率80%である。
課題 文章を書く力が弱い。	①学力アップタイムでは、課題に集中して取り組ませる。 ②宿題での反復練習、音読カードやミニテストでの確認を継続的に行う。	①学力アップタイムは隔週で漢字と計算練習を10分間行う。月曜日は視写をする。 ②学習の進度に合わせてその都度実施する。		評価 A ・学習習慣の向上のため学習規律を徹底する。 ・T.T指導担当との打ち合わせをする時間を取り、支援方法を考える。 ・学力検査の結果から、対策を講じていく。	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ハンドサインを活用して発表することができる。 学習内容がわかると頑張ることができる。	①人の話を考えながら、最後まで聴くことができる。 ②自分の考えをもち、筋道を立てて書いたり話したりすることができる。	「自分の考えや意見を伝える力がついている」と答える児童の割合を80%以上にする。	取り組みを継続していくが、聴き方・話し方の指導を全校で共通理解点化して取り組んでいく。	ペアやグループ活動ではホワイトボードやワークシートを使って友達に説明する時間をつくってきた。また、聴き方、話し方を教室に掲示し、常に意識させるようにした。	取組指標に沿った授業に取り組み、学校評価において「自分の考えや意見を伝える」力がついている」と答えた児童は67%で、保護者は81%である。
課題 話をしっかり聴くことができない。コミュニケーション力に課題がある。自分の考えを筋道を立てて的確に表現する力が不足している。	①正しく聞くことができているかを確認するために質問する、書かせるなどアウトプットの活動を意識して取り入れる。 ②ペアやグループ学習を取り入れ、絵や図、文章などを用いて考えを説明する活動やノート指導を行う。	①1日に1度は、アウトプットの活動を行う。 ②1日に1度は、ペアやグループ学習を行い、自分の考えを筋道を立てて発表する機会をつくる。		評価 B ・授業の導入では、学習の見通しをもたせ、一人一人が自分の考えをもち、考えさせるようにしていく手立てを考える。 ・考える時間を保障し、考えたことを書かせることで言語活動の充実を図る。 ・引き続きペアやグループ学習を取り入れていく。	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 運動や体験活動など興味関心をもった活動に進んで参加し、努力を惜しまず取り組むことができる。 読書習慣が定着しつつある。	①自ら調べ解決する学習過程を身につけ丁寧に、粘り強く課題に取り組むことができる。 ②家庭でも進んで読書をする。 ③望ましい生活習慣を身につけ気持ちよく学習に臨むことができる。	①授業の振り返りを1行以上書くことができる児童を80%以上にする。 ②「読書習慣が身につけている」と答える保護者の割合を80%以上にする。	授業の導入後、児童が主体的に課題解決していくための見通しを立て、自力解決できる時間を確保する。家庭学習を見直し、家庭との連携を深める。	学力向上に向けた研究授業は、3回以上行った。朝の読書だけでなく、隙間の時間にもよく本を読んでいる。図書委員会の活動、担任の呼びかけ等で低学年でも休み時間に進んで本を借りることができるようになってきた。学力アップシートは、町全体で取り組む方向に進んでいる。	授業の振り返りは、低学年でもほとんどの児童が1行以上書くことができるようになった。「読書習慣が身につけている」と答える保護者は、50%であったが、児童は81%であった。家庭での読書が課題である。
課題 自分から課題や問題点を見つけたり、考えたりする意識が少なく、指示待ちになることが多い。 健康的な生活習慣づくりが必要である。(早寝・早起き・朝ごはん・歩育)	①授業改善に取り組む、授業の中で学習のめあてと振り返りを書かせる時間をとる。 ②週末読書を推進し、金曜日には図書室で本を借りることを意識づける。 ③保護者と連携しながら生活習慣づくりを行う。	①研究授業を年3回以上行う。 ②月に8冊以上本を借りた児童を全校に知らせる。(図書室に掲示、校内放送)) ③年2回、学力アップシートを活用して自分の生活を振り返る。		評価 B ・主体的に学習に取り組む児童を育成するため、授業改善に取り組む。相互に授業を公開し、改善策を練っていく。 ・学習のめあてと振り返りを書く時間を保障し、授業では自己解決する場をつくり、考える子どもの育成をめざす。	次年度における改善事項

平成28年度 学力向上ロードマップ

